

熊本城天守閣内展示の検討状況について

1. 取組状況と今後の予定

- ・ 平成 29 年 4 月 17 日 第 1 回天守復興部会
 <審議事項>
 耐震化、バリアフリー化・ユニバーサルデザイン、展示について（展示ストーリーについて）
- ・ 平成 29 年 6 月 9 日 第 2 回天守復興部会
 <審議事項>
 展示について（周辺施設との連携・補完について、展示（たたき台））
- ・ 平成 29 年 7 月 24 日 展示・内装基本設計業務委託契約締結（平成 30 年 2 月 28 日まで）
- ・ 平成 29 年 8 月 4・5・6 日 市民オープンハウス+ワークショップ開催
- ・ 平成 29 年 8 月 18 日 第 3 回天守復興部会
 <審議事項>
 展示について（周辺施設との連携・補完、展示コンセプト、展示配置プラン等）
- ・ 平成 29 年 8 月 27 日 市民シンポジウム開催（基調講演+パネルディスカッション）
- ・ 平成 29 年 10 月頃 第 4 回天守復興部会（中間報告）
- ・ 平成 29 年 12 月頃 第 5 回天守復興部会（最終報告）

2. 第 2 回天守復興部会での委員意見と対応策について（案）

- ① 天守展示コンセプト・熊本城全体の利活用・グランドデザイン・マスタープランの整理
 → 周辺施設との連携・補完について説明（資料 2 参照）。コンセプトについては次回提示。
- ② 展示ではない天守閣内利用方法（岡山城天守・レセプション会場など）
 → レセプション等は天守閣以外で熊本城ホール等により実施。
- ③ 日本の城の中での熊本城の位置付けを示す
 → 天守閣内（展示基本設計）で検討。（資料 2・資料 3 参照）
- ④ 城下町模型の展示演出（人形が動く）
 → 城下町模型については展示基本設計において既存模型の活用含め検討。（次回以降提示予定）
- ⑤ ソフト面（部屋・儀式等）の展示説明を充実（永青文庫の史料等から）
 → 実施設計まで熊本城調査研究センターで可能な限り調査研究
- ⑥ 天守各階の部屋、一部でも復元的な内装は可能か
 → 天守各階の部屋についてはパネル等により紹介。
 復元的なものは、小天守地下 1 階井戸・カマドの再現や大天守 6 階からの眺望
- ⑦ 西南戦争、近代の歴史、軍政時代の模型、軍施設の配置を示す
 → 展示基本設計において検討。（資料 2・資料 3 参照）
- ⑧ 天守閣内に入る人数・滞在時間の調査、シュミレーション
 → 展示基本設計において検討
 <参考>
 - ・ これまでの 1 日入場者数
 MAX 25,862 人（H20.5.4） MIN 1,292 人（H21.1.22）
 平均 6,132 人/日（平成 20 年度 2,219,986 人÷362 日）
 - ・ 天守閣繁忙期 Max 想定人数 ※大天守 6 階の許容人数を想定
 4,243 人/日

- ⑨ 滞留しないような余裕・通路幅の確保・バリアフリー
→ 展示及び建築ユニバーサルデザイン設計において検討
- ⑩ 視覚障がい者向けの触れる展示
→ 展示基本設計・実施設計において検討
- ⑪ ユニバーサルデザイン、見学者の安全
→ 建築ユニバーサルデザイン設計で検討
- ⑫ さらに具体提案を待ち、何を残し何を削るかの検討
→ 展示基本設計で検討
- ⑬ 城周辺施設との棲み分け
→ ①と同じ

3. 監修について（案）

（総合監修）平井 聖委員長、伊東 龍一部会長

※その他、個々のパネル解説文・イラスト等については、上記2名の推薦により展示内容に応じた監修者を選定する。